

釣りに伴う支出アンケート調査結果

水産試験場奥多摩分場と協力関係にある釣り団体にアンケートを配布し釣りに伴う支出アンケート調査を実施した。回答をえた 119 人の宿泊を伴わない 1 人 1 日当りの平均消費金額は約 7,758 円であった。漁業センサス第 10 次（平成 10 年）によると東京都内水面遊漁者数は 153,100 人となっており、今回の結果から内水面の遊漁に伴う経済効果は約 11 億 8,800 万円と推定された。

実施機関	奥多摩分場・資源管理部	事業名	巡回指導
------	-------------	-----	------

背景・ねらい

都内河川には、都内及び近県から多くの遊漁者が訪れ、その消費活動は地域経済の振興に少なからず寄与している。しかし消費活動の実態を調査した事例は無い。このため、今後の河川漁協ならびに、遊漁者指導を行う上での基礎資料にするため、アンケート調査を実施した。

成果の内容・特徴

全回答者数は 119 人、男性 114 人・96%、女性 5 人・4%であった。

年齢別割合は、50 才代が 42%で最も多く、次いで 60 才代の 39%が続き、最高齢は 80 才代が 1 人であった。

釣行回数で、最も多い人は 100 回であった。5 回単位の区分別にみると、「5 回未満」が 31%と最も多く、「5～9 回」が 24%、「15 回以上」が 23%であった。

釣りの対象魚種（複数回答）はウグイ・オイカワが最も多く 39%、「ハゼ」21%、「マス類」19%、「アユ」9%であった。

利用する交通機関では、マイカーのみの人が 70%、マイカーと電車・バスなどの「公共交通を併用」する人が 21%であった。

宿泊を伴わない釣り人 1 人 1 日当りの平均消費金額（釣具等は含まず）は約 7,800 円で、このうちおよそ 44%の約 3,400 円が交通費であった。

今回の結果から内水面の遊漁に伴う経済効果は約 11 億 8,800 万円と推定された。

成果の活用と反映

内水面の水産業にとって、遊漁は重要な位置を占めている。今回の結果から、金額的にも東京都の水産業にとっても重要なものであることが明らかになった。

さらに調査の対象者を増やし精度を向上させるとともに、河川漁協ならびに遊漁者指導に活用していきたい。

（齊藤 修二・加藤憲司）

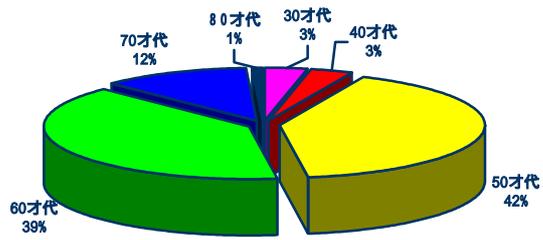


図1 回答者の年齢構成

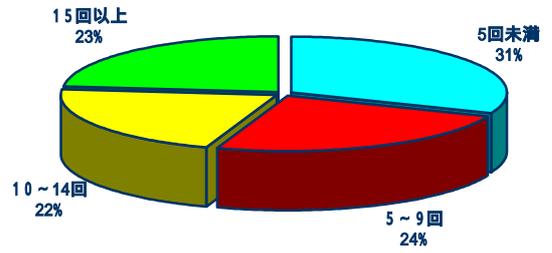


図2 釣行回数

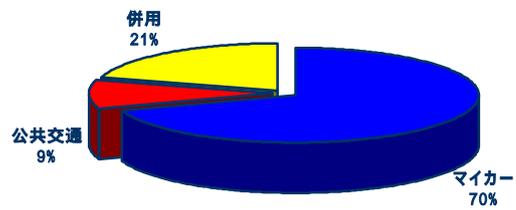


図3 交通手段

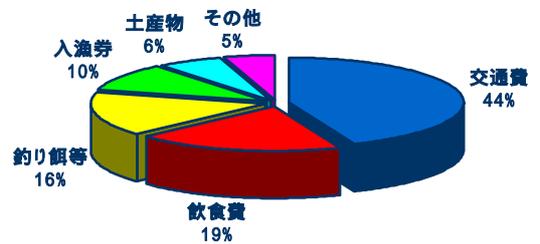


図4 消費割合



図5 アユ釣



図6 河川釣り場